

東海北陸厚生局長 殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 竹 越

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3の規定に基づき平成24年度の業務に関して報告します。

記

1. 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
2. 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
3. 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	67人
--------	-----

 (注)前年度の研修医の実績を記入すること
4. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
5. 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績 → 別紙参照(様式第13)
6. 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
7. 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	311人	50人	326.5人	看 護 補 助 者	148人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	7人	0人	7.0人	理 学 療 法 士	30人	臨 床 臨 床 検 査 技 師	61人
薬 剤 師	39人	0人	39.0人	作 業 療 法 士	12人	臨 床 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	2人	0人	2.0人	視 能 訓 練 士	10人	臨 床 そ の 他	0人
助 産 師	21人	0人	21.0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	610人	39人	640.7人	臨 床 工 学 士	12人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	6人
准 看 護 師	2人	3人	3.4人	栄 養 士	5人	そ の 他 の 技 術 員	22人
歯 科 衛 生 士	6人	1人	6.9人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	83人
管 理 栄 養 士	16人	0人	16.0人	診 療 放 射 線 技 師	33人	そ の 他 の 職 員	55人

- (注) 1. 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2. 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3. 「合計」の欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下第2位を切り捨て、小数点以下第1位まで算出して記入すること。
 それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計数を記入すること。

8. 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たりの平均入院患者数	658.6人	6.1人	664.7人
1日当たりの平均外来患者数	876.7人	40.4人	917.1人
1日当たりの平均調剤数			690.1剤

- (注) 1. 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2. 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3. 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4. 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロータブレーター	取扱患者数	83人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>石灰化病変を有する狭心症や心筋梗塞の患者に対して、従来のPTCAでは治療成績が良好でない。ロータブレーターは石灰化病変やびまん性病変、硬い病変に対する治療に有効である。現在、ロータブレーターとステントを併用し、石灰化病変や複雑病変を有する患者に対しても治療成績が良好である。</p>			
医療技術名	光干渉断層撮影(OCT)	取扱患者数	25人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>冠動脈内にイメージワイヤー(近赤外線)を挿入し、オクルージョンバルーンカテーテルを用いて血流を遮断することで、血管内超音波の約10倍の解像度の画像を得ることができる。血管内超音波では評価困難な線維性被膜が非薄化した不安定プラークの識別や、高い画像解像度を利用して薬剤溶出性ステント治療後の微小新生内膜の評価ができる。</p>			
医療技術名	心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	76人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>心房細動は肺静脈を中心とする巣状興奮による発生要因と拡大・変性した左房筋を中心とする器質による維持の要因がある。本症例に対して高周波を用いたカテーテルによる肺静脈離断術、complex fractionated atrial electrogram (CFAE)を指標とする左右心房焼灼術、線状焼灼法などを病状に応じて組み合わせることで、治療成績は良好である。</p>			
医療技術名	心臓再同期療法(CRT)	取扱患者数	13人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>慢性心不全が重症化する機序として、伝導傷害に伴う心室同期不全が様々な血行動態の悪化を招き、心筋にダメージを与え、その結果さらに伝導傷害を助長させるという悪循環の存在がある。この悪循環を断ち切る治療法がCRTである。通常のペースメーカーと同様にリードを右室心尖部に留置し、それに加えて左室側壁にもリードを留置することで、両方から左室を挟み込むようにペーシングし、収縮タイミングの時相のズレを解消させる。</p>			
医療技術名	ループレコーダー	取扱患者数	3人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>原因不明の失神を繰り返す患者で、特に心原性失神が強く疑われ、Holter心電図や電気生理学的検査においても確定診断に至らない場合に、原因究明を目的として、皮下に植え込み、皮下心電図を記録・保存することができる心電計である。R波を検出してR-R間隔で心停止、徐脈、心室頻拍などの不整脈を自動検出あるいは患者起動にて記録することができ、3年間連続で記録することができる。</p>			
医療技術名	薬理遺伝学に基づくワルファリンの個別化医療	取扱患者数	37人
<p>当該医療技術の概要(循環器内科)</p> <p>血栓性疾患予防に使用されるワルファリンは、至適薬効を発揮するための投与量の個人差が極めて大きい。これに関与する主な因子である二つの高頻度遺伝子多型(CYP2C9とVKORC1)を調べ、その結果を元に初期投与量を設定することで、より早期の至適治療域到達が可能となる。また薬効変動要因である食事からのビタミンK摂取量に影響されやすい個人を特定し、それに基づく食事指導を行い、抗凝固療法の安定化を図る。</p>			
医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	60人
<p>当該医療技術の概要(腎臓内科)</p> <p>従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体の検索によって、より高度の診断が可能である(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4α5/α2, HLA-G1, CD45, CoL1)</p>			
医療技術名	髄液細胞のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	55人
<p>当該医療技術の概要(神経内科)</p> <p>中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4, CD8, CD25, CD29, CD56, CCR3, CCR4, CCR5, CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色することにより、どのような役割を担った白血球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、神経免疫疾患および神経完成症の正しい診断と治療選択肢に至ることを可能にしている。</p>			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性辺縁系脳炎の診断と治療	取扱患者数	350人
当該医療技術の概要(神経内科) 抗NMDA受容体抗体が介在する自己免疫性脳炎は、若年女性に急性の経過で精神症状、けいれん重積、意識障害、呼吸不全などの重篤な症状を呈するもので、卵巣奇形腫が潜在することが多く、早期に腫瘍切除および血漿交換や免疫療法を行えば、ほぼ完治する。診断には、患者髄液・血清中の抗NMDA受容体抗体を検出することが重要である。我々は、NMDA受容体NR1/NR2ヘテロマーを用いたcell-based assay法による抗NMDA受容体抗体の検出系を確立し、本邦で唯一の抗体検査可能施設であることから、全国諸施設からの抗体診断依頼を受けており、その結果を速やかに診療現場に還元して、適切な加療をガイドしている。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要(小児科) 多発性内分泌腫瘍1型(MEN1)、先天性甲状腺機能低下症(MCT8、NKX2-1)、軟骨低形成症(FGFR3)、HDR症候群(GATA3)につき、患者末梢白血球からのゲノムDNAを用い、PCR産物のシーケンスにより遺伝子診断を行っている。			
医療技術名	コイル塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(小児科) 動脈管過依存症をはじめとした異常血管を有する先天性心疾患に対して行っているカテーテル治療である。心カテーテルを用いて異常血管にコイルを挿入し、塞栓を形成することにより血流を遮断する。外科的治療と比べてはるかに低侵襲である。			
医療技術名	造血幹細胞移植(臍帯血移植)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(小児科) 希少疾患である小児骨髄異形成症候群への根治的治療は造血幹細胞移植である。造血幹細胞の提供元としての臍帯血はHLA抗原の不一致への許容範囲が広く、かつ、保存された血液であるため移植時期の選定が容易である。この医療は血液悪性疾患の難治例や再発例にも有効な治療法である。			
医療技術名	羊膜移植術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 羊膜は抗原性のない組織であり、ヒト眼表面の再構築に使用し有効であったとする報告が1995年にMiami大学のTseng, SC教授らによりなされた。その後、羊膜は様々な消炎性のサイトカインを放出し新生血管の抑制、増殖組織の抑制の効果もあることが判明し、本邦でも一部の施設で使用され始めている。当科においても1999年に大学倫理委員会より許可を得ることが出来たため、産婦人科の協力により羊膜の提供を受け、難治性の外眼部疾患患者に羊膜移植術を開始している。			
医療技術名	新生児代謝異常検査	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要(産科婦人科) この検査は新生児に尿をガスクロマトグラフィー質量分析(GC/MS)法により検査することで、22項目の代謝異常症を早期に診断し、もし異常があれば治療を行い、心身障害の発症を予防することが可能である。採尿はろ紙をおむつにはさんでしめらせるだけなので、新生児には負担はかからない。			
医療技術名	卵巣動脈血流解析による排卵予知	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 体外受精一胚移植を含めたhCGを用いた排卵誘発時に、卵巣動脈の血行動態をカラードップラー法で測定・解析し、hCG投与1～3時間後の卵巣血流量をみて排卵が順調に行われるかどうかを予測する方法である。非侵襲的な方法であり、測定時間も短く、患者にとっての負担はほとんどない。卵巣血流量解析からhCG投与36時間後の順調な排卵が予測できない場合には、高額な費用がかかる体外受精一胚移植をキャンセルするなど、体外受精一胚移植の成績向上および医療経済学的に有用な方法である。			
医療技術名	腎、肝移植後ならびに透析患者の妊娠分娩管理	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(産科婦人科) 移植後患者や透析患者の性機能の回復は、本人や家族にとり大きな福音である。しかし、妊娠に伴う移植臓器への影響、拒絶反応、精神的負担などの問題がある。国内外で極めて稀な腎移植後の自然排卵による品胎妊娠、死体腎移植および本邦初の肝移植後などの妊娠前から妊娠中、分娩および分娩後と長期間の厳重な管理を行っている。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	黄体化未破裂卵胞に対するG-CSF療法	取扱患者数	5人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>不妊症の一般的な治療のひとつに、排卵誘発剤のクロミフェン・サイトレートとhCGを使用した排卵を促進させる治療法がある。この治療を行うと卵を持った卵胞は直径18mm以上に発育し、hCGの注射により48時間以内に排卵を認めるのだが、なかには卵胞は発育するが排卵せずに黄体化未破裂卵胞になる症例も少なくない。本治療は排卵誘発の際に黄体化未破裂卵胞を認めた症例に対しG-CSFを投与し、高い確率で排卵を認めるだけでなく正常排卵例と同程度に妊娠成立を認める有用な治療である。</p>			
医療技術名	子宮頸部上皮内腫瘍・尖圭コンジローマに対するフェノール療法	取扱患者数	50人
<p>当該医療技術の概要(産科婦人科)</p> <p>子宮頸癌はヒトパピローマウイルス(HPV)感染によって誘発されることが明らかになっている。子宮頸癌検診で見つかる異常の多くは上皮内腫瘍(CIN)であるが、発見されても治療法はないため、初期のCINの場合は自然治癒するまで外来通院させるしか方法がない。また、別のタイプのHPV感染が原因の尖圭コンジローマに対する簡単な外来治療法も存在しない。CINや尖圭コンジローマ患者に対する簡単かつ確実な治療法として、我々はフェノール療法を開発し治療をおこなっている。現在のところ、治療効果は100%である。</p>			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激法によるうつ病治療	取扱患者数	10人
<p>当該医療技術の概要(神経科精神科)</p> <p>頭蓋上に置いたコイルに電流を流して変動磁場を発生させ、脳にコイルの電流と逆向きの渦電流を生じさせることにより、当該脳部位の活動性を調整する技法である。薬物療法への反応が乏しい難治性うつ病症例に対し、本人の同意を得て、背外側前頭前野への反復経頭蓋磁気刺激法を施行しており、気分症状の改善や活動性の向上などの効果が得られている。</p>			
医療技術名		取扱患者数	人
医療技術名		取扱患者数	人
医療技術名		取扱患者数	人
医療技術名		取扱患者数	人
医療技術名		取扱患者数	人

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	37人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	64人	・広範脊柱管狭窄症	3人
・重症筋無力症	45人	・原発性胆汁性肝硬変	32人
・全身性エリテマトーデス	106人	・重症急性膵炎	2人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	72人
・再生不良性貧血	16人	・混合性結合組織病	13人
・サルコイドーシス	46人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	23人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	79人	・網膜色素変性症	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	30人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	29人	・肺動脈性肺高血圧症	6人
・潰瘍性大腸炎	92人	・神経線維腫症	9人
・大動脈炎症候群	21人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	16人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	6人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	6人
・脊髄小脳変性症	44人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・クローン病	43人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患	124人	・球脊髄性筋萎縮症	3人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	7人
・後縦靭帯骨化症	95人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	18人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	2人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	19人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症	38人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害	106人
		合計	1325人

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療技術の開発及び評価の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	・
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には業務報告を行う3年前の4月以降に健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供したものに限り)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。
	<input type="checkbox"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に6回程度 (臨床一病理部門：5回 臨床一検査部門：1回)
剖 検 の 状 況	剖検症例数 63 例 剖検率 20.1 %

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	スフィンゴミエリンKOマウスを用いた自己免疫疾患の発症機序の解明と治療法への応用	梅原 久範	血液免疫内科学	10,200 円	補委 文部科学省
2	母胎間シグナルリレーの大脳皮質発生における生理学的意義	八田 稔久	解剖学 I	4,400 円	補委 文部科学省
3	DNA二重鎖切断修復からアポトーシスへのシグナル変換における53BP1の機能解析	岩淵 邦芳	生化学 I	11,300 円	補委 文部科学省
4	生活習慣病予防における食後高血糖および食事性AGEsの関与に関する研究	竹内 正義	先進医療研究部門	4,300 円	補委 文部科学省
5	覚醒剤濫用の法医学的診断を目指した薬物依存モデル動物による酸化ストレスの解析	北村 修	法医学	3,100 円	補委 文部科学省
6	無作為化比較試験による胸部CT検診の感度・特異度算出と死亡率減少効果の推定	佐川 元保	呼吸器外科学	5,000 円	補委 文部科学省
7	母胎間シグナル伝達による胎児赤血球脱核機構の解析～胎盤の造血ニッチとしての役割～	島村 英理子	解剖学 I	2,200 円	補委 文部科学省
8	四肢の再生メカニズムの解明:なぜ、手は手になり、足は足になるのか?	下川 隆	解剖学 II	900 円	補委 文部科学省
9	アルツハイマー病の新規治療戦略:神経幹細胞の経静脈的移植	王 芙蓉	生理学 I	800 円	補委 文部科学省
10	ヒト心筋細胞の世界標準モデル構築:分岐解析並びに比較生理学的手法によるアプローチ	倉田 康孝	生理学 II	2,300 円	補委 文部科学省
11	脂肪肝の虚血再灌流障害に対する運動トレーニングの効果	宮前 俊一	生理学 II	1,400 円	補委 文部科学省
12	53BP1によるDNA二重鎖切断端の運動性亢進は、末端結合修復能を向上させるか	橋本 光正	生化学 I	1,700 円	補委 文部科学省
13	高転移性リス肺癌細胞株が類洞様腫瘍血管を誘導する分子基盤の解明	米倉 秀人	生化学 II	2,100 円	補委 文部科学省
14	カルシウムセンサーSTIM1の扁平上皮がん細胞増殖における機能解析	吉田 純子	薬理学	1,700 円	補委 文部科学省
15	基底様乳癌の類器官モデル構築と形態形成機構の解明	清川 悦子	病理学 I	1,194 円	補委 文部科学省
16	骨軟部肉腫の転移と抗薬剤耐性に関わるアクアポリン分子種の同定と分子機構の解明	上田 善道	病理学 II	1,000 円	補委 文部科学省
17	C型インフルエンザウイルスの増殖過程における第二の膜蛋白質CM2の役割の解明	村木 靖	微生物学	800 円	補委 文部科学省
18	ピコルナウイルス持続感染を制御するLおよびL*蛋白の協調的細胞死制御機序の解明	大原 義朗	微生物学	1,100 円	補委 文部科学省
19	悪性中皮腫におけるATBF1の細胞内動態解析と癌幹細胞マーカー発現の有無	湊 宏	臨床病理学	1,500 円	補委 文部科学省
20	骨軟部腫瘍におけるATBF1遺伝子解析による悪性度評価の研究	野島 孝之	臨床病理学	500 円	補委 文部科学省
21	日本人健康成人男女における喫煙習慣とその中断(禁煙)が腎機能に及ぼす影響	山田 裕一	衛生学	2,200 円	補委 文部科学省
22	職業性ストレスがoccupational injury発生におよぼす研究	石崎 昌夫	衛生学	2,000 円	補委 文部科学省
23	ダイオキシン環境暴露が小児の社会情動発達に及ぼす影響	西条 旨子	公衆衛生学	1,200 円	補委 文部科学省
24	睡眠状況と高感度CRPとの関連の縦断的検討	中村 幸志	公衆衛生学	1,800 円	補委 文部科学省
25	慢性腎臓病に伴う甲状腺機能異常と循環器疾患危険因子に関する疫学研究	櫻井 勝	公衆衛生学	1,800 円	補委 文部科学省
26	心疾患におけるデオキシリボ核酸分解酵素 I のアポトーシス誘導効果に関する研究	河合 康幸	循環器内科学	2,800 円	補委 文部科学省
27	肺サーファクタント輸送異常による間質性肺炎の病態解明	長内 和弘	呼吸器内科学	2,100 円	補委 文部科学省
28	腎移植コホートにおける機能分子発現と治療効果に関するプロテオーム解析	横山 仁	腎臓内科学	1,000 円	補委 文部科学省
29	抗グルタミン酸受容体抗体が関与する脳炎発症機序の解明	田中 恵子	神経内科学	2,300 円	補委 文部科学省
30	Y-90標識抗CD20抗体治療におけるリンパ球の放射性組織障害に関する検討	渡邊 直人	放射線医学	700 円	補委 文部科学省
31	DNA損傷部位に集積する蛋白質を用いたストロンチウム治療後放射線組織障害の検討	道合 万里子	放射線医学	600 円	補委 文部科学省
32	化学放射線療法早期効果判定におけるbiomarker imagingの定量評価	的場 宗孝	放射線医学	1,200 円	補委 文部科学省
33	酸化ストレスの観点からステロイド誘発骨壊死の機序解明と予防法の開発	市塚 徹	整形外科	1,000 円	補委 文部科学省
34	症候性ラケ囊胞の増大機序における炎症性サイトカインとアクアポリンの関与	立花 修	脳神経外科学	1,200 円	補委 文部科学省
35	白内障症におけるトロポミオン遺伝子の役割と白内障予防に関する研究	久保 江理	眼科学	1,100 円	補委 文部科学省
36	マネキン型紫外線測定器による眼部紫外線曝露の測定と眼部UVインデックスの提唱	佐々木 洋	眼科学	800 円	補委 文部科学省

37	接触アレルギーにおける角化細胞接着分子と皮膚ランゲルハンス細胞の経時的解析	西部 明子	皮膚科学	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
38	黄体化未破裂卵胞を中心とした排卵障害治療におけるG-CSFの有効性に関する研究	牧野田 知	産科婦人科学	1,800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
39	高齢者における慢性腎臓病の指標としてのADMAと冠動脈石灰化進展に関する追跡研究	長澤 晋也	健康管理センター	3,300	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
40	羊水染色体検査の限界をMLPA法、DNAアレイ法はどこまで克服できるか。	尾崎 守	人類遺伝学研究部門臨床	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
41	日本脳炎ワクチン未接種乳幼児の感染リスクの予見:基礎データ収集	村上 学	分子腫瘍学研究部門	800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
42	脳-心臓軸による心筋再生と治療;心筋内アディポネクチン発現誘導との関連	神田 享勉	地域医療学	500	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
43	覚醒剤濫用によるアルファシヌクレイン障害とエピジェネティック的变化の解析	王 路	法医学	1,800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
44	胎盤形成におけるガレクチンファミリーの機能解析	東海林 博樹	一般教育機構	1,700	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
45	赤外線曝露による眼内の三次限熱動態解析	小島 正美	看護学部	2,900	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
46	ストーマ周囲皮膚障害予防のためのセルフケア教育システムの構築	紺家 千津子	看護学部	2,300	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
47	訪問看護師向け「膀胱留置カテーテル管理」研修プログラムの開発と効果実証	前田 修子	看護学部	800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
48	地域高齢者の介護予防事業への参加状況と生活機能の変化に関する追跡調査	浜崎 優子	看護学部	700	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
49	働く人々のバーンアウトと循環器疾患リスクに関する縦断研究	北岡 和代	看護学部	1,100	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
50	男性夜勤交代勤務者における性腺機能と前立腺疾患リスク	森河 裕子	看護学部	1,900	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
51	炎症関連大腸がんにおけるレプチンシグナル系の関与	甲野 裕之	看護学部	1,600	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
52	職業性ストレス低減のための看護ケアプログラムの開発とその評価	長井 麻希江	看護学部	400	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
53	認知症高齢者の家族介護者のストレスが血圧に及ぼす影響と健康支援	櫻井 志保美	看護学部	1,200	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
54	受容体および新規分子によるプラズマサイトイド樹状細胞の制御機構の解明	中村 晃	免疫学	1,200	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
55	糖尿病腎症に対するミトコンドリア制御に基づいた新規治療法の探索	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
56	がん温熱療法の新規分子マーカー候補FAM107ファミリー蛋白質の発現・機能解析	中島 日出夫	腫瘍内科学	1,400	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
57	化学療法により誘発されるEMT誘導因子の同定とその制御による肺がん治療法の開発	島崎 猛夫	腫瘍内科学	1,900	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
58	オキサリプラチンの末梢神経障害に対する人參養榮湯の臨床効果とその分子機構	元雄 良治	腫瘍内科学	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
59	MR拡散協調と水分子輸送関連遺伝子解析による肺癌悪性度の研究	薄田 勝男	呼吸器外科学	700	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
60	周術期肺傷害におけるRAGEの役割の研究	佐久間 勉	呼吸器外科学	1,900	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
61	新しいリンパ節転移診断技術の開発ー抗体標識ナノビーズを用いた迅速転移診断	木南 伸一	一般・消化器外科学	800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
62	嗅神経經由の輸送を利用した他覚的嗅覚検査の開発	志賀 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
63	ポストボリオ症候群と耳鼻咽喉科・歯科的疾患との関連性についての研究	青木 秀哲	顎口腔外科学	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
64	顎関節症の病因病態形成への細菌の関与:患者の滑液と滑膜における遺伝子解析	瀬上 夏樹	顎口腔外科学	1,100	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
65	性ホルモン・環境ホルモンの影響による変形性顎関節症の病態解明	金山 景錫	顎口腔外科学	1,000	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
66	軽度認知障害(MCI)の神経生理学的診断法の確立	吉村 弘	顎口腔外科学	1,400	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
67	臨床実習中のシミュレーション学習における情報支援システムの開発	安田 幸雄	医学教育学	1,300	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
68	新規疾患、IgG4関連疾患の病因解明の為の研究	梅原 久範	血液免疫内科学	1,400	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
69	ヒト耳介弾性軟骨細胞の三次元形態形成に関わるアクアポリン分子種の同定	氷見 祐二	形成外科学	1,800	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
70	外来化学療法を受けて生活するがん患者のサバイバーシップを支援する看護モデルの開発	田村 幸子	看護学部	700	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
71	においセンサを用いた呼吸による頭頸部癌の非侵襲的診断法の開発	三輪 高喜	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,100	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
72	2型糖尿病患者の運動療法の捉え方からみた運動療法看護教育プログラムの有効性の検証	山崎 松美	看護学部	3,100	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
73	眼内血管形成における可溶性VEGF受容体の役割:個体レベルでの解明	池田 崇之	生化学II	2,100	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省
74	翻訳後修飾部位の変異体を用いたC型インフルエンザウイルスCM2蛋白の機能解析	大桑 孝子	微生物学	1,200	円	<input checked="" type="checkbox"/>	補委	文部科学省

75	中高年齢者の両眼視線解析手法を用いた見え方の質に対する新指標	初坂 奈津子	眼科学	800	円	✓	補委	文部科学省
76	覚醒剤少量反復投与ラットの神経細胞障害の解析～小胞体ストレスからのアプローチ～	武市 敏明	法医学	1,000	円	✓	補委	文部科学省
77	体力づくりを配慮したゴール型教材・サッカーの授業づくりに関する研究	津田 龍佑	一般教育機構	1,500	円	✓	補委	文部科学省
78	COMT不全とホモシステイン相互作用が演じる病理学的意義の解明	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	1,600	円	✓	補委	文部科学省
79	肺腺癌におけるアクアポリン1の発現制御のメカニズム	町田 雄一郎	呼吸器外科学	1,400	円	✓	補委	文部科学省
80	器官・組織形成期の発生異常に基づく上皮管腔組織形成障害	八田 稔久	解剖学Ⅰ	1,000	円	✓	補委	文部科学省
81	先天性徐脈発症機構の分子生物学的解明とこれに基づくバイオベースメーカー開発の研究	倉田 康孝	生理学Ⅱ	150	円	✓	補委	文部科学省
82	東アジア共通性マダニが媒介する新興アナプラズマ症、紅斑熱群、ライム病の分子疫学	及川 陽三郎	医動物学	500	円	✓	補委	文部科学省
83	α-ジストログリカン糖鎖の発現からみた前立腺癌の臨床病理学的研究	福島 万奈	臨床病理学	100	円	✓	補委	文部科学省
84	ベトナムにおけるダイオキシン類暴露と性ホルモン・前立腺がんに関する疫学研究	中川 秀昭	公衆衛生学	1,000	円	✓	補委	文部科学省
85	熱帯地域における開発が陸水環境および健康に及ぼす影響	梅 博久	呼吸器内科学	20	円	✓	補委	文部科学省
86	網羅的自己抗体プロファイリング法に基づく免疫性神経疾患の病態解明と治療戦略の構築	田中 恵子	神経内科学	4,900	円	✓	補委	文部科学省
87	嗅神経及び腫瘍へ集積し高エネルギーを付与する原子核プローブに関する核放射化学研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	100	円	✓	補委	文部科学省
88	ウイルス感染に対するスタチン系薬作用の分子基盤の解明	石垣 靖人	RIセンター	300	円	✓	補委	文部科学省
89	細胞内情報伝達系の多次元FRETイメージング	清川 悦子	病理学Ⅰ	9,000	円	✓	補委	文部科学省
90	細胞機能と分子活性の多次元蛍光生体イメージング	清川 悦子	病理学Ⅰ	2,000	円	✓	補委	文部科学省
91	日本人英語学習者の英語リズム・イントネーション習得のための調音及び知覚・音響分析	澁谷 良穂	一般教育機構	80	円	✓	補委	文部科学省
92	精神科看護師における倫理的悩みとそれによるバーンアウトを防止する要因の検討	北岡 和代	看護学部	550	円	✓	補委	文部科学省
93	体圧分散器具の圧再分配機能を有効にするシーツの開発—シーツ張力と圧再分配評価—	紺家 千津子	看護学部	50	円	✓	補委	文部科学省
94	看護と介護の連携に向けた教育デザインに関する研究	橋本 智江	看護学部	150	円	✓	補委	文部科学省
95	末梢動脈疾患(PAD)合併透析患者の皮膚形態と色調による下肢血行評価指標の決定	紺家 千津子	看護学部	10	円	✓	補委	文部科学省
96	肥満、閉経、リンパ管、蜂蜜がきれいな皮膚創傷治療にどのように影響するのかの基礎研究	紺家 千津子	看護学部	30	円	✓	補委	文部科学省
97	地域イノベーションクラスタープログラム(グローバル型)ほくり健康創造クラスター「血液中の有核赤血球の回収・DNA分析システムの開発」	高林 晴夫	FDD-MBセンター	28,491	円	✓	補委	一般財団法人北陸産業活性化センター(文部科学省)
98	災害時高齢者医療の初期対応と救急搬送基準に関するガイドライン作成に関する研究	森本 茂人(研究代表者)	高齢医学	15,200	円	✓	補委	厚生労働省
99	免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	微生物学	1,200	円	✓	補委	厚生労働省
100	進行性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	3,000	円	✓	補委	厚生労働省
101	新規疾患,IgG4関連多臓器リンパ増殖性疾患(IgG4+MOLPS)の確立のための研究	梅原 久範(研究代表者)	血液免疫内科学	10,000	円	✓	補委	厚生労働省
102	自己免疫疾患に関する調査研究	梅原 久範	血液免疫内科学	2,000	円	✓	補委	厚生労働省
103	IgG4関連全身硬化性疾患の診断法の確立と治療方法の開発に関する研究	梅原 久範	血液免疫内科学	700	円	✓	補委	厚生労働省
104	免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	神経内科学	1,200	円	✓	補委	厚生労働省
105	特発性大腿骨頭壊死症の診断・治療・予防法の開発を目的とした全国学際的研究	松本 忠美	整形外科	1,200	円	✓	補委	厚生労働省
106	低線量胸部CTによる肺がん検診の有効性評価のための無作為化比較試験	佐川 元保(研究代表者)	呼吸器外科学	18,805	円	✓	補委	厚生労働省
107	標準的検診法と精度管理に係る新たなシステムなどの開発に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	500	円	✓	補委	厚生労働省
108	老化及び老年病に関する長期縦断疫学研究	森本 茂人	高齢医学	1,200	円	✓	補委	(独)国立長寿医療センター(厚生労働省)
109	2010年国民健康栄養調査対象者の追跡開始(NIPPON DATA2010)とNIPPON DATA80/90の追跡継続に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	700	円	✓	補委	厚生労働省
110	特定検診・保険指導におけるメタボリックシンドロームの診断・管理のエビデンス創出に関する横断・縦断研究	中川 秀昭	公衆衛生学	1,150	円	✓	補委	厚生労働省
111	大規模コホート共同研究の発展による危険因子管理の優先順位の把握と個人リスク評価に関するエビデンスの構築	中川 秀昭	公衆衛生学	1,850	円	✓	補委	厚生労働省
112	わが国における飲酒の実態把握およびアルコールに関連する生活習慣病とその対策に関する総合的研究	堤 幹宏	消化器内科学	800	円	✓	補委	厚生労働省
113	各種禁煙対策の経済影響に関する研究—医療費分布と費用効果分析—	中村 幸志	健康管理センター	1,000	円	✓	補委	厚生労働省

114	真菌感染症の病態解明に基づく検査・治療法の確立と国内診断・治療ネットワークの構築に関する研究	望月 隆	皮膚科学	1,400	円	✓	補委	厚生労働省
115	新型薬剤耐性菌等に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	2,000	円	✓	補委	厚生労働省
116	糖尿病性腎症の病態解明と新規治療法開発のための評価法の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	500	円	✓	補委	厚生労働省
117	熱帯地域における紫外線による眼疾患の実態調査と小児期眼部被曝の影響の解明に関する研究	佐々木 洋(研究代表者)	眼科学	2,220	円	✓	補委	厚生労働省
118	ウイルス感染症の診断、疫学および予防に関する研究	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	500	円	✓	補委	厚生労働省
119	ISO/TC249に資するための伝統医学関連の用語・疾病分類・デバイス・安全性確保などの基盤整備研究	元雄 良治(研究代表者)	腫瘍内科学	14,066	円	✓	補委	厚生労働省
120	本邦における先天異常モニタリングによる先天異常発生要因の分析とその対応に関する研究	中川 秀昭	公衆衛生学	200	円	✓	補委	厚生労働省
121	医薬品開発のための副作用予測法・評価法の開発	梶波 康二	循環器内科学	500	円	✓	補委	厚生労働省
122	長寿のメニューってできるんか? ~食品の「活性酸素」消去能力を測定しよう~	島田 ひろき	解剖学 I	410	円	✓	補委	(独)日本学術振興会
123	人のからだってどうやってできるの? 2011~生命の誕生を顕微鏡でのぞいてみよう~	島村 英理子	解剖学 I	410	円	✓	補委	(独)日本学術振興会
124	人に病気をうつす虫(蚊)がどんな奴か見てみよう	村上 学	分子腫瘍学研究部門	410	円	✓	補委	(独)日本学術振興会
125	眼部への電波ばく露の定量的調査に関する研究	佐々木 洋	環境原性疫学病態研究部門	17,424	円	✓	補委	総務省
126	カミムラミ汚染地域における生命予後等に関する疫学研究	中川 秀昭	公衆衛生学	5,000	円	✓	補委	日本エヌ・ユー・エス(株)(愛媛県)
127	エネルギー吸収プラスチック材料を内包した耐衝撃立体繊維構造体による新規人体保護用具の開発	森本 茂人	高齢医学	591	円	✓	補委	財団法人山形県立山形県立健康福祉センター
128	動脈硬化の予防&改善効果を有する機能性食品の開発	友杉 直久	先進医療研究部門	2,732	円	✓	補委	ゼライス株式会社(経済産業省)
129	光環境操作による複合的な精神神経疾患治療装置	加藤 伸郎	生理学 I	634	円	✓	補委	(独)科学技術振興機構
130	母体血液画像データからの胎児由来有核赤血球(NRBC)検出技術	高林 晴夫	FDD-MBセンター	3,138	円	✓	補委	(独)科学技術振興機構
131	自己免疫性脱髄疾患の髄液診断マーカー	田中 恵子	神経内科学	1,000	円	✓	補委	(独)科学技術振興機構
132	さつぽろバイオクラスター構想“Bio-S”	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	3,273	円	✓	補委	公益財団法人北海道科学技術振興センター
133	イオンチャンネル蛋白によるインフルエンザウイルスの増殖制御機構の解明	村木 靖	微生物学	3,000	円	✓	補委	内藤記念科学振興財団
134	統合失調症患者の脳画像を用いたMultimodality研究	嶋田 貴充	神経科精神科	500	円	✓	補委	公益財団法人精神医学研究振興財団
135	免疫制御受容体による自己免疫疾患の制御機構の研究	中村 晃	免疫学	4,000	円	✓	補委	(財)上原記念生命科学財団
136	職業・生活習慣要因と長期循環器疾患発症に関する大規模職域コホート研究	中川 秀昭	公衆衛生学	4,000	円	✓	補委	(公)日本動脈硬化予防研究基金
137	Narrow-band imaging(NBI)を利用した脳室内病変の毛細血管構造の評価	笹川 泰生	脳神経外科学	500	円	✓	補委	内視鏡医学研究振興財団
138	免疫制御受容体による自己免疫疾患制御機構の解明	中村 晃	免疫学	500	円	✓	補委	東北大学加齢医学研究所
139	脂肪肝に対するCOMT不全の是正を介したオートファジー誘導治療戦略の開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	2,000	円	✓	補委	(財)第一三共生命科学研究振興財団
140	活性化型Rasによって引き起こされる内腔浸潤と可動性の亢進の分子機構の解明	清川 悦子	病理学 I	3,000	円	✓	補委	(財)岸田記念医学薬学研究振興財団
141	ストレス関連ホルモンによる扁桃体興奮性調節機構の解明	山本 亮	生理学 I	400	円	✓	補委	(財)金原一郎記念医学医療振興財団基礎医学医療研究助成金
142	メタボリック症候群・脂肪肝に対する新規治療法開発:妊娠高血圧腎症と共通の分子機構に注目して	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	1,000	円	✓	補委	(財)小野医学研究財団小野医学研究奨励助成
143	ACE阻害薬の糖尿病性腎症治療における重要性の再検証:抗線維化ペプチドAcSDKP集積の観点より	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	2,000	円	✓	補委	(財)小野医学研究財団小野医学研究奨励助成
144	転写因子Stox1の生物学的・病理学的意義の検討	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	1,000	円	✓	補委	(財)ノバルティス科学振興財団
145	透析患者の水分・塩分摂取に関わる自己管理支援に行動変容プログラム「ステップ・バイ・ステップ法」を用いた効果の検証研究	田村 幸子	看護学部	500	円	✓	補委	(社)日本透析医会公募研究助成
146	習慣的運動による「うつ症状」治療効果の検討	山本 亮	生理学 I	1,000	円	✓	補委	(財)明治安田厚生事業健康医科学研究助成
147	セリンプロテアーゼインヒビター-SLPIによる過敏症制御機構の解明	中村 晃	免疫学	3,960	円	✓	補委	(社)日本化学工業協会

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合には「委」に「レ」をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	Adv Biosci Biotechnol 2012.6	The initial phase of oxidative stress in a steroid-induced osteonecrosis rabbit model	T. Ichiseki	整形外科
2	Hip Int 2013.3	How far above the true anatomic position can the acetabular cup be placed in total hip arthroplasty?	K. Fukui	整形外科
3	臨整外 2012.5	重度後縦靭帯骨化症に対する術式選択と合併症 胸椎 重度胸椎後縦靭帯骨化症に対する全周囲除圧	川原範夫	整形外科
4	整・災外 2012.6	【踵骨骨折の治療】踵骨関節内骨折に対する経皮的骨接合術	岡田正人	整形外科
5	整形外科 2012.6	仙骨前方に高度の骨欠損を認めた先天性腰椎すべり症の1例	清水義朗	整形外科
6	Hip Joint 2012.8	セメントレスカップの設置高位と術後早期の外転筋力の回復	福井清数	整形外科
7	Hip Joint 2012.8	寛骨臼回転骨切り術後THAの中期成績	福井清数	整形外科
8	関節外科 2012.11	アナトミック人工股関節ステム10年以上の成績 近位全周性ポーラスコーティングの有用性	杉森端三	整形外科
9	日人工関節会誌 2012.12	ポーラスセメントレスカップを用いて行ったTHA再置換術の全例調査における生存率	兼氏 歩	整形外科
10	日人工関節会誌 2012.12	VerSys Tapered Stem の中期成績—特に Stress Shielding に注目して—	市塚 徹	整形外科
11	日人工関節会誌 2012.12	クロスリンクポリエチレンはジルコニア骨頭に対して耐摩耗性を維持しうるか—術後平均10年の検討—	福井清数	整形外科
12	臨床整形外科 2013.3	人工膝関節置換術における大腿骨頭中心マーキングの重要性 大腿骨コンポーネントの冠状面アライメントの正確性に関する検討	杉森端三	整形外科

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
13	J Surg Res.	Mast cells are not involved in the ischemia-reperfusion injury in perfused rat liver.	芝本利重	生理学Ⅱ
14	Biomed Res.	The responses of the hepatic and splanchnic vascular beds to vasopressin in rats.	芝本利重	生理学Ⅱ
15	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol.	Vascular perfusion limits mesenteric lymph flow during anaphylactic hypotension in rats.	芝本利重	生理学Ⅱ
16	Am J Physiol Heart Circ Physiol.	Roles of sarcoplasmic reticulum Ca ²⁺ cycling and Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger in sinoatrial node pacemaking: insights from bifurcation analysis of mathematical models.	倉田康孝	生理学Ⅱ
17	PLoS One.	Involvement of hypothalamic AMP-activated protein kinase in leptin-induced sympathetic nerve activation.	谷田守	生理学Ⅱ
18	Biomed Res.	The responses of the hepatic and splanchnic vascular beds to vasopressin in rats.	芝本利重	生理学Ⅱ
19	Eur J Pharmacol.	Stabilization of Kv1.5 channel protein by bepridil through its action as a chemical chaperone.	倉田康孝	生理学Ⅱ
20	Circ J.	Electrophysiological properties of prion-positive cardiac progenitors derived from murine embryonic stem cells.	倉田康孝	生理学Ⅱ
21	Jpn. J. Radiol.	Seed migration after transperineal interstitial prostate brachytherapy with I-125 free seeds: analysis of its incidence and risk factors	K. Miyazawa	泌尿器科学
22	Int. J. Urol.	Cyclooxygenase 2 and prostaglandin E ₂ regulate the attachment of calcium oxalate crystals to renal epithelial cells	K. Miyazawa	泌尿器科学
23	Virology (2012.8)	Glycosylation of CM2 is important for efficient replication of influenza C virus.	Okuwa T	微生物学
24	J Virol (2012.8)	Intrinsic temperature sensitivity of influenza C virus hemagglutinin-esterase-fusion protein.	Muraki Y	微生物学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
25	PLoS ONE (2013.1)	Saffold virus type 3 (SAFV-3) persists in HeLa cells.	Himeda T	微生物学
26	Pathol Int	IgG4-related sclerosing mesenteritis: a rare mesenteric disease of unknown etiology.	湊 宏	臨床病理学
27	Virchows Arch	EGFR and HER2-Akt-mTOR signaling pathways are activated in subgroups of salivary gland carcinomas.	湊 宏	臨床病理学
28	Biochem Biophys Res Commun	AT motif binding factor 1 (ATBF1) is highly phosphorylated in embryonic brain and protected from cleavage by calpain-1	湊 宏	臨床病理学
29	APMIS	Intrathyroidal epithelial thymoma/carcinoma showing thymus-like differentiation; comparison with thymic lymphoepithelioma-like carcinoma and a possibility of development from a multipotential stem cell	湊 宏	臨床病理学
30	Acta Histochem Cytochem	Distinct cytoplasmic expression of KL-6 mucin in chromophobe renal cell carcinoma: A comparative immunohistochemical study with other renal epithelial cell tumor	福島万奈	臨床病理学
31	Neurology and Clinical Neuroscience	Intracranial immunoglobulin G4-related disease successfully treated by steroid and oral cyclophosphamide: A case report.	湊 宏	臨床病理学
32	Chirurgia	A 92-year-old woman with solitary metastasis to the thyroid gland 6 years after nephrectomy for renal cell carcinoma	湊 宏	臨床病理学
33	J Hum Genet. 58(4):216-25.(2013) 2013年2月	Mutational analysis of TSC1 and TSC2 in Japanese patients with tuberous sclerosis complex revealed higher incidence of TSC1 patients than previously reported.	Yo Niida	遺伝子医療センター
34	Mol Genet. Metab. 107(3):580-5.(2012) 2012年9月	Applying and testing the conveniently optimized enzyme mismatch cleavage method to clinical DNA diagnosis.	Yo Niida	遺伝子医療センター
35	J Hum Genet. 57(10):687-90.(2012) 2012年8月	Paternal uniparental isodisomy of chromosome 22 in a patient with metachromatic leukodystrophy.	Yo Niida	遺伝子医療センター
36	Eur. J. Surg. Oncol (2012年11月)	Long-term outcome of breast cancer patients treated with radiofrequency ablation	野口昌邦	一般・消化器外科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
37	J. Kanazawa. Med. Univ. (2012年11月)	Low preoperative total cholesterol level predicts poor survival following curative resection in gastric cancer	大西敏雄	一般・消化器外科学
38	Breast Cancer (2012年10月)	Is axillary dissection unnecessary in patients with a positive sentinel lymph node?	野口昌邦	一般・消化器外科学
39	日本外科系連合学会誌 (2012年10月)	胃切除術後障害の実態と、改善へのchallenge	小坂健夫	一般・消化器外科学
40	手術 (2012年11月)	幽門保存胃切除術の現況-「胃切除術式と胃術後障害の疑問に答える-PPG」ライブアンケートより	木南伸一	一般・消化器外科学
41	癌と化学療法 (2012年11月)	薬剤耐性再発GISTに対して肝・横隔膜合併腫瘍切除した1例	上田順彦	一般・消化器外科学
42	癌と化学療法 (2012年11月)	大動脈周囲リンパ節再発に対しCPT-11+CDDP療法が奏効した胃原発神経内分泌細胞癌の1治療例	大西敏雄	一般・消化器外科学
43	癌と化学療法 (2012年11月)	局所療法(外科的切除とSBRT)と全身療法により長期生存が得られた乳癌再発症例	森岡絵美	一般・消化器外科学
44	癌と化学療法 (2012年11月)	盲腸癌肺転移術後の胸腔鏡ポートサイト再発を切除した1例	富田泰斗	一般・消化器外科学
45	Breast Cancer (2013年1月)	Nipple or skin-sparing mastectomy and immediate breast reconstruction by the "moving window" operation	大野由夏子	一般・消化器外科学
46	今日の診療のために ガイドライン外来診療2013 (2013年3月)	がん診療の現状:大腸癌	小坂健夫	一般・消化器外科学
47	J. Gastrointestin. Liver Dis	Effects of -1018G>A polymorphism of HRH2 (rs2607474) on the severity of gastric mucosal atrophy	H.Yamada	消化器内科学
48	Hum. Immunol.	Genetic polymorphisms of IL17A and pri-microRNA-938, targeting IL17A 3'-UTR, influence susceptibility to gastric cancer	T.Arisawa	消化器内科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
49	BMC Med. Genomics	Influence of IL17A polymorphisms on the aberrant methylation of DAPK and CDH1 in non-cancerous gastric mucosa	T.Arisawa	消化器内科学
50	Int. J. Oncol	Association between common genetic variant of HRH2 and gastric cancer risk	T.Arisawa	消化器内科学
51	Int. J. Mol. Med.	NFKB1 polymorphism is associated with age-related gene methylation in Helicobacter pylori-infected subjects	T.Arisawa	消化器内科学
52	J. Gastrointestin. Liver Dis.	Association of genetic polymorphisms in IL17A and IL17F with gastro-duodenal diseases	R.Hayashi	消化器内科学
53	Ann. Cancer Res. Ther	Combination chemotherapy with S-1 and docetaxel in advanced gastric cancer patient with peritoneal dissemination and malignant ascites	M.Nakamura	消化器内科学
54	J. Gastroenterol.	Genetic polymorphism of pri-microRNA 325, targeting SLC6A4 3'-UTR, is closely associated with the risk of functional dyspepsia in Japan	T.Arisawa	消化器内科学
55	World J. Gastroenterol.	-449 C>G polymorphism of NFKB1 gene, coding nuclear factor-kappa-B, is associated with the susceptibility to ulcerative colitis	R.Hayashi	消化器内科学
56	CT検	低線量胸部CTを用いた肺がん検診の有効性評価のための日本における無作為化比較試験の現況と課題	佐川元保	呼吸器外科学
57	BMJ (Int Ed).	Fibroproliferative changes on high-resolution CT in the acute respiratory distress syndrome predict mortality and ventilator dependency: a prospective observational cohort study	佐川元保	呼吸器外科学
58	Clinical Nephrology (2012.4)	Thomsen-Friedenreich antigen exposure as a cause of Streptococcus pyogenes-associated hemolytic-uremic syndrome	Yutaka Saikawa	小児科学
59	Endocrine Journal (2012.10)	Clinical features of insulinoma in patients with multiple endocrine neoplasia type 1: analysis of the database of the MEN Consortium of Japan	Masatsune Itoh	小児科学
60	新薬と臨床 (2013.1)	2010/2011年シーズン,10歳未満の小児インフルエンザウイルス感染症におけるラニナミビルの解熱効果および吸入確実性の検討	山下 陽子	小児科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
61	Cardiology in the Young (2013.2) (published online)	Subclinical arterial stiffness in young children after Kawasaki disease	Masato Oguri	小児科学
62	北陸公衆衛生学会誌 (2013.3)	内灘町における5歳児健診診査の取り組み～就学までの包括的支援体制づくり～	佐藤 仁志	小児科学
63	Acta Ophthalmologica doi:10.1111/j.12012755-3768.2011.02334.x	Twelve-year Incidence of Exfoliation Syndrome in the Reykjavik Eye Study	A. Arnarsson, H. Sasaki, F. Jonasson,	眼科学
64	Acta Ophthalmologica DOI:10.1111/j.12012755-3768.2011.02360.x	The 7-year cumulative incidence of cornea guttata and morphological changes in the corneal endothelium in the Reykjavik Eye Study	GM Zoega, A Arnarsson, H Sasaki,	眼科学
65	IEEE Transactions on electromagnetic compatibility DUI:10.1109/TEM C.2012.2212443	Application of reproducible measurements of complex permittivities to crystalline lens from 500 MHz to 50 GHz	H Wakatsuchi, M Kojima, H Sasaki, K Sasaki,	眼科学
66	Clinical Ophthalmology 6:585-592 2012	Quantitative evaluation of corneal epithelial resistance measuring device in vivo	M. Fukuda, H. Sasaki	眼科学
67	Journal of Cataract & Refractive Surgery 10:1783-1787	Change in retinal image contrast with age in eye with transparent lenses	N Mita, N Hatsusaka, E Shibuya, H Osada, N Shibata, S Shibata, K	眼科学
68	Journal of Radiation Research DOI:10.1093/jrr/rrs104	Quantitative evaluation of light scattering intensities of the crystalline lens for radiation related minimal change in interventional radiologists: a cross-sectional pilot study	T Abe, H Sasaki, Y Sakamoto,	眼科学
69	Epigenetics 8:268-280 2013	Epigenetic repression of LEDGF during UVB exposure by recruitment of SUV39H1 and HDAC1 to the Sp1-responsive elements within LEDGF promoter CpG island	B. Bhargavan, B. Chhunchha, E. Kubo,	眼科学
70	Am J Physiol Cell Physiol 304:C2636-C655, 2013	Curcuma abates hypoxia-induced oxidative stress based-ER stress-mediated cell death in mouse hippocampal cells (HT22) by controlling Prdx6 and NF-kB regulation	B. Chhunchha, E. Kubo,	眼科学
71	J. Cell. Mol. Med. 17:212-221 2013	Elevated tropomyosin expression associated with epithelial-mesenchymal transition of lens epithelial cells	E. Kubo, N. Hasanova, N. Fatma, H. Sasaki, DP. Singh,	眼科学
72	Ophthalmology 120:1166-1172 2013	Classification of secondary corneal amyloidosis and involvement of lactoferrin	K. Araki-Sasaki, K. Hirano, Y. Osakabe, M. Kuroda, K. Kitagawa, H. Mishima, 他5	眼科学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
73	Clinical Ophthalmology 7:515-520 201	Safety comparison of additives in antiglaucoma prostaglandin (PG) analog ophthalmic formulations	M. Fukuda, S. Shibata, N. Shibata, E. Kubo, H. Sasaki, 他3名	眼科学
74	Radiation Protection dosimetry doi:10.1093/rpd/nct010	Fdtd analysis of temperature elevation in the lens of human and rabbit models due to Near-Field and Far-Field exposures at 2.45 GHz	T. Oizumi, M. Kojima, H. Sasaki, K. Sasaki	眼科学
75	2013 International Symposium on Antennas and Propagation	Analysis of millimeter-wave exposure on rabbit eye using a hybrid PMCHT-MoM-FDTD method	J. Chakarothai, M. Kojima	眼科学
76	Nephron Clin. Pract.	Circulating fibrocytes in ischemia-reperfusion injury and chronic renal allograft fibrosis	S. Kimura	腎臓内科学
77	Clin. Exp. Nephrol.	Renal disease in the elderly and the very elderly Japanese: analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR)	H. Yokoyama	腎臓内科学
78	Oncol. Rep.	Characterization of proteins secreted by pancreatic cancer cells with anticancer drug treatment in vitro	T. Takata	腎臓内科学
79	石川医報	メディカル インフォメーション 最先端医療 金沢医科大学病院・腎臓内科における診療紹介: ABO血液型不適合移植の実際	横山 仁	腎臓内科学
80	腎移植症例集	下行性壊死性縦隔炎を発症し救命しえた腎移植の1例	木村庄吾	腎臓内科学
81	Clin. Nephrol.	A patient with persistent renal AL amyloid deposition after clinical remission by HDM/SCT therapy	H. Okuyama	腎臓内科学
82	金沢医科大学雑誌	Examination of the Cinacalcet Pre-test and Prediction of Long-term Effects After Treatment in Patients with Secondary Hyperparathyroidism: Early Diagnosis of Treatment Resistance	Saito Atsushi	腎臓内科学
83	Hypertension Research (2013.7)	Association between status of hypertension and screening test for frailty in community-dwelling elderly Japanese	Koizumi Y	看護学部
84	J Exp Clin Med (2012. 9)	Guidelines for Nonmedical Care Providers to Manage the First Step of Emergency Triage of Elderly Evacuees: Downloaded via Smart Phones in Japan	Morimoto S	高齢医学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
85	J Am Geriatr Soc (JAGS) (2012. 12)	Depopulation with rapid aging in Minamisoma city after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident	Morimoto S	高齢医学
86	Journal of Clinical Neuroscience	Novel <i>FUS</i> mutation in patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis and corticobasal degeneration	長山成美、他	神経内科学
87	J Med Virol	Novel polymerase chain reaction method for detecting cutaneous human papillomavirus DNA	Toshiyuki Sasagawa	産科婦人科学
88	J Infect Chemother	Immune responses against human papillomavirus(HPV) infection and evasion of host defense in cervical cancer	Toshiyuki Sasagawa	産科婦人科学
89	日本内科学会雑誌 2012.11	発熱と腰痛を主訴とした70歳代女性	青木洋文	循環器内科学
90	Medical Tribune 2013.2	エゼチミブを用いた積極的な脂質改善のベネフィット	梶波康二	循環器内科学
91	Biophys. Res. Commun. 427: 191-196, 2012年10月	SIRT1 inactivation induces inflammation through the dysregulation of autophagy in human THP-1 cells, Biochem. , 427:191-196, 2012.	渡邊 愛	糖尿病・内分泌内科学
92	糖尿病 55: 392-397, 2012年6月	フットケア保湿教育が糖尿病患者の足病変への認識行動に及ぼす影響	山田ルミ	看護部
93	Int J Prev Med	Characteristics of smoking cessation in former smokers in a rural area of Japan	森河裕子	公衆衛生学
94	PLoS ONE	Impact of perinatal dioxin exposure on infant growth: A cross-sectional and longitudinal studies in dioxin-contaminated areas in Vietnam	西条旨子	公衆衛生学
95	Am. J. Hypertens.	Overtime work and blood pressure in normotensive Japanese male workers	中村幸志	公衆衛生学
96	HypertensRes.	Blood pressure categories and long-term risk of cardiovascular disease according to age group in Japanese men and women	中川秀昭	公衆衛生学

No.	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
97	Int. J. Epidemiol.	Adult height and the risk of cause-specific death and vascular morbidity in 1 million people: individual participant meta-analysis	中川秀昭	公衆衛生学
98	Metabolism	Self-reported speed of eating and 7-year risk of type 2 diabetes mellitus in middle-aged Japanese men	櫻井 勝	公衆衛生学
99	J. Atheroscler. Thromb.	Exposure to particulate matter and long-term risk of cardiovascular mortality in Japan : NIPPON DATA80	長澤晋哉	公衆衛生学
100	Horm. Metab. Res.	Serum gamma-glutamyltransferase and the risk of hyperuricemia: a 6-year prospective study in Japanese men	中村幸志	公衆衛生学
101	J. Hypertens.	Long-term risk of BP values above normal for cardiovascular mortality: a 24-year observation of Japanese aged 30 to 92 years	長澤晋哉	公衆衛生学
102	Diabetes Res. Clin. Pract.	Diabetes and life expectancy among Japanese - NIPPON DATA80	中川秀昭	公衆衛生学
103	心身医学 (2012.5)	ピア・サポートにおける気分変化に及ぼす固執の影響について	松田 幸久	総合医学研究所 プロジェクト研究センター戦略的研究部
104	心身医学 (2012.12)	抑うつにおける推論の誤りを測定する自己・他者志向的誤推論尺度 (Self-Other Focused Thinking Error Scale:SOFT) の作成	松田 幸久	総合医学研究所 プロジェクト研究センター戦略的研究部
105	人間環境学研究 (2012.9)	復帰抑制と注意の慣性による促進効果	松田 幸久	総合医学研究所 プロジェクト研究センター戦略的研究部
106	PLoS ONE (2013.1)	Mismatch negativity and cognitive performance for the prediction of psychosis in subjects with at-risk mental state.	Y.Kawasaki	精神神経科学
107	Psychiatry Clin. Neurosci. (2012.12)	Correlations between atrophy of the entorhinal cortex and cognitive function in patients with Alzheimer's disease and mild cognitive impairment	K.Watanabe	精神神経科学

計 107件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原着論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 川上 重彦
管理担当者氏名	病院事務部事務長 古居 滋

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌, 各科診療日誌, 処方せん, 手術記録, 看護記録, 検査所見記録, エックス線写真, 紹介状, 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院治療計画書	病院管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者を明らかにする帳簿	病院職員課
	高度医療の提供の実績	医事課
	高度医療技術の開発及び評価の実績	医事課
	高度医療の研修の実績	病院職員課
	閲覧実績	病院管理課
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課
	入院患者数、外来患者数及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部
	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部(医療安全管理室)
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部(医療安全管理室)
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全部(医療安全管理室)
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全部(感染制御室)
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全部(医療安全管理室)	
当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全部(医療安全管理室)	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況		
	院内感染のための指針の策定状況	医療安全部(感染制御室)	
	院内感染のための委員会の開催状況	医療安全部(感染制御室)	
	従事者に対する院内感染のための研修の実施状況	医療安全部(感染制御室)	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全部(感染制御室)	
	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療の提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院事務部事務長 古居 滋(管理・運営)、医療情報部長 堀 有行(診療記録)
閲覧担当者氏名	病院管理課長 浜本 啓行(管理・運営)、情報管理課長 山野清一(診療記録)
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室・病院管理課事務室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療の提供の実績

紹介率	57.9%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	8,866人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	8,365人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	831人	
	D : 初診の患者の数	22,825人	

(注) 1 「紹介率」欄はA、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dはそれぞれの延べ数を記入すること。

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・指針の主な内容</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針(以下「指針」という。)は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。H24年度改訂では、改組に伴う医療安全部構成図と医療事故の報告ルート図の改訂、委員会委員名簿の差し替えを行った。また、6その他の事項の1)に、診療における患者と医師との間の情報共有化を図る目的でインフォームドコンセント時の留意事項を追加記載した。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 24 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>*医療安全対策小委員会:月1回開催(第3水曜日)</p> <p>医療安全対策小委員会は医療安全管理室副室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科・歯科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の17名で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>*医療安全対策委員会:月1回開催(第4火曜日)</p> <p>医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー(病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職)67名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2グループづつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し、所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会(第1回目)</p> <p>開催日 平成24年9月7日(金)</p> <p>テーマ ヒューマンファクターの基礎知識:医療安全のために</p> <p>講師 小松原 明哲 先生(早稲田大学理工学術院 創造理工学部 教授)</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会(第2回目)</p> <p>開催日 平成25年1月23日(水)</p> <p>テーマ 当院における医療安全、医薬品管理、医療機器安全管理の課題と対応策</p> <p>講師 医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>院内で起こった医療事故は、速やかに病院長まで報告されると共に医療安全管理者が現場へ出向き、情報収集を行う。院内で発生した事故事例については、月1回開催される医療問題検討委員会で全事例の協議・対応を図ると共に、更に調査・検討が必要な医療事故に対して、医療事故調査委員会の開催要否の審議を行っている。医療事故調査委員会では、関係者から詳細な事故状況の報告を求め、それに関する質問と討論から背景、要因、問題点を洗い出して分析・検討をしている。重大事例や情報を共有して再発防止に役立つ事例は、医療安全対策委員会で報告を行って職員に周知する他、外部機関である日本医療機能評価機構へ報告を行う。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(2名) <input type="checkbox"/> 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有(4名) <input type="checkbox"/> 無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
<p>・所属職員：専任(6)名 兼任(9)名</p> <p>・活動の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会、医療問題検討委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。 ・医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。 ・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 ・医療安全に係る連絡調整に関すること。 ・診療情報提供に関すること。 ・医療安全相談に関すること。 ・その他医療安全対策の推進に関すること。(病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等) 	
⑧ 当該病院内に患者から安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無

院内感染のための体制の確保に係る措置

① 院内感染のための指針の策定状況

 有 無

・指針の主な内容

1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方
2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項
3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針
4. 感染症の発生状況の報告に関する基本事項
5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項
6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針
7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針

② 院内感染のための委員会の開催状況

年 12 回

・活動の主な内容

1. 感染管理組織とシステムの構築
2. 院内感染サーベイランス
3. 感染に対するコンサルテーション
4. 感染管理教育
5. 職業感染防止
6. 感染防止技術: マニュアル作成・改訂
7. ファシリティ・マネジメント

【委員会の開催】

- 1) 月1回年間12回の定例開催
- 2) 委員数28名
- 3) 年度平均出席率 80.7%

③ 従事者に対する院内感染のための研修の実施状況

年 12 回

・研修の主な内容

【全職員対象】

- 1) 「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時: 2012年6月19日
講師: 1. 院内感染対策、ここに注目! 野田洋子 医療安全全部感染制御室課長
2. 適切な感染症診療を目指して 馬場尚志 臨床感染症科学 准教授
- 2) 「手術部位感染対策の実際」 開催日時: 2013年2月15日
講師: 大毛 広喜 広島大学病院 感染症科 教授

【新採用者対象】

- 1) 全員「新入職員オリエンテーション」 開催日時: 2012年4月3日
- 2) コメディカル対象 開催日時: 2012年4月3日
- 3) 研修医対象 開催日時: 2012年4月10日
- 4) 新人看護職員研修 開催日時: 2012年4月5日、12日

【その他】

- 1) リンク委員対象 開催日時: 2012年11月29日
 - 3) 看護師3年目対象 開催日時: 2012年8月3日、9月14日
 - 3) 看護師2年目・准看護師対象 開催日時: 2012年11月8日
 - 4) 帰局職員及び中途採用者対象 開催日時: 2012年10月31日
- その他育児休業明け看護職員、各フロア向けはその都度必要時、研修会を行っている

④

・病院における発生状況の報告等の整備

 有 無

・その他の改善のための方策の主な内容

1. 感染症防止対策の強化

- 1) 感染管理支援システムを利用した、院内感染対策の推進(耐性菌対策、抗菌薬適正使用、サーベイランス等)
- 2) 指定抗菌薬の届け出および長期使用者の確認、抗MRSA薬のTDM実施など抗菌薬適正使用を推進
- 3) リンク委員会議の定期開催や感染事例の周知など、リンク委員組織を利用した感染対策の強化

2. 感染防止対策の改善の具体的な方策

- 1) 感染管理支援システムを利用した、感染症サーベイランスの導入(中心静脈カテーテル関連血流感染、人工呼吸器関連肺炎、手術創部感染)
- 2) 感染対策マニュアルの見直しと改訂(ほぼ全面改訂を実施した)
- 3) 血管内留置カテーテルの陽圧ロックの実施と、末梢静脈ルートの生理食塩水によるロックの実施
- 4) 尿取り扱い時における衛生管理の徹底(採尿用紙コップの導入、衛生管理マニュアルの作成と周知、蓄尿数の減少)
- 5) 陰圧個室の空調のスモークテストによる確認
- 6) 多職種間で感染対策の情報共有を行い、対策を徹底するための院内統一表示の導入
- 7) 中途採用者の麻疹等の抗体価の測定およびワクチン接種の実施
- 8) 部署別、職種別の感染対策講習会の開催
- 9) 手指衛生用の消毒薬および環境整備用の消毒シートの見直し

医薬品の使用に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
・活動の主な内容 麻薬及び向精神薬の処方と取り扱い(研修医対象) 麻薬及び向精神薬の取り扱い(看護師対象) ハイリスク薬の取り扱い(看護	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	年 1 回
・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・業務の主な内容 確認チェックリストを用いて、手順書通りに実施できているかを確認しチェックする。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医薬品に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 ・その他の改善のための方策の主な内容 院内情報誌を作成し、情報提供している。提供方法は、電子メール、電子カルテ画面への貼り付け、病棟薬剤師による口頭説明を主としている。	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・活動の主な内容</p> <p>機器研修はH19.3.30医政局通知(有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回/年)に従って行っている。主要ME機器については人工呼吸器等を中心に医療安全部、看護部、ME部(当院の機器管理部門)等が協力、連携し機器研修を実施している。(平成23年7月よりH24年8月までに研修等の実施回数 23回、参加延べ人数約370名)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	年 回
<p>・手順書の作成 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・保守点検の主な内容</p> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示(点検内容、頻度)に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えて1000～5000時間毎にメーカー定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容</p> <p>機器メーカー、技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧している。また医療安全委員会(各部門リスクマネージャ全員出席)での報告、注意喚起を実施し必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を実施している。</p>	